

会議録

会議の名称	令和4年度第3回教育計画策定懇談会
開催日時	令和4年10月20日（木曜日）午前9時から
開催場所	西東京市役所イングリッシュビル3階第3・4会議室
出席者	<p>【委員】種村座長、竹之内委員、落合委員、瀬沼委員、竹田委員、西原委員、鈴木委員、荘委員、小林（宏）委員、宮本委員、小林（正和）委員</p> <p>【事務局】掛谷教育部副参与兼教育企画課長、名古屋教育部主幹、近藤学務課長、山縣教育指導課長、田中教育部副参与兼教育支援課長、吉田社会教育課長、福所公民館長、徳山図書館長、佐々木教育企画課課長補佐兼企画調整係長、高枝教育企画課企画調整係主査、須藤教育企画課企画調整係主事、望月教育企画課企画調整係主事</p> <p>【傍聴人】0人</p>
議題	<p>議題1 西東京市の教育について（点検評価報告書による取組の報告）</p> <p>議題2 計画策定におけるヒアリング調査の実施について</p> <p>議題3 計画策定におけるワークショップの実施について</p> <p>議題4 その他</p>
会議資料の名称	<p>資料1 「令和4年度 西東京市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（令和3年度分）報告書 ～令和3年度における事務の管理及び執行状況～」（本編）</p> <p>資料2 「令和4年度 西東京市教育委員会の権限に属する事務の管理及び執行の状況の点検及び評価（令和3年度分）報告書 ～令和3年度における事務の管理及び執行状況～」（参考資料）</p> <p>資料3 西東京市教育計画策定のためのヒアリング調査の実施概要（案）</p> <p>資料4 西東京市教育委員会 教員用アンケート調査（案）</p> <p>資料5 西東京市教育計画策定のための子どもワークショップの実施概要（案）</p>
記録方法	<input type="checkbox"/> 全文記録 <input checked="" type="checkbox"/> 発言者の発言内容ごとの要点記録 <input type="checkbox"/> 会議内容の要点記録
会議内容	
<p><開会></p> <p>○事務局 資料確認、会議次第、資料1、資料2、資料3、資料4、資料5の説明を行った。</p> <p>1 西東京市の教育について（点検評価報告書による取組の報告）</p> <p>○事務局 （資料1と資料2を用いて説明）</p> <p>○座長 御意見、御質問をお願いしたい。 理解を深めるために、用語説明をお願いしたい箇所を申し上げる。 37ページ、1-1-①2行目に「英語4技能の習得」とあるが、これはどのような技能か。 42ページ、1-4-②、4つ目に「教科書によるマルチメディアデイジーを導入し」とあるが、具体的にはどのようなものか。</p>	

44ページ、2-1-②、2つ目に「就学支援シート」とあるが、学校関係者以外の方にもわかるように説明をいただきたい。

46ページ、2-2-③、「スクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカー」とあるが、具体的な違いと具体的な仕事を、学校関係者以外の方にもわかるように説明をいただきたい。

49ページ、3-1-④、2つ目に「指導者用デジタル教科書」とあるが、具体的にどのようなものなのか、学校関係者以外の方にもわかるように説明をいただきたい。

他にも、説明が必要だと思われる用語があれば、教えていただきたい。

○A委員

3-2-①「カリキュラム・マネジメント」については、後ろに言葉の説明が付いているが、具体的にはどのようなことをするのか、よくわからない。

○D委員

3-1-②「西東京市ゼロカーボンシティ宣言」について、具体的にはどのような内容で、本市の取組としては、どのような特徴があるのか、教えていただきたい。

○G委員

46、47ページの「ニコモルーム」とは何か。

○座長

「ニコモルーム」と「スキップ教室」の両方について、説明いただきたい。

用語の理解ができていないと十分な議論はできない。詳しい説明には時間がかかるので、簡潔な説明で結構なので、お願いしたい。順不同で結構である。

○事務局

「英語4技能」は、「リスニング、リーディング、ライティング、スピーキング」ということである。聞く力、読む力、書く力、話す力を、バランスよく身につけていくという視点で、英語指導をしている。

「マルチメディアデイジー」は、「読み上げ音声付き電子書籍」である。特別に配慮が必要な子ども等だけでなく、聞くことによって理解が深まるということで活用されている。

「指導者用デジタル教科書」については、従来は紙の教科書で指導をしていたが、大型モニターで、教科書と同じ内容を映し出すことができる。映し出すだけではなく、そこに下線を引いたり、ポイントとなる箇所を要点化したりすることができるので、子どもたちの理解が深まる。併せて、本市では、今年度は小学校5年生から中学3年生まで、英語と算数、数学で、学習者用のデジタル教科書を導入している。紙の教科書に加えて、タブレットを活用した授業を、文部科学省の実証授業で進めている。

「カリキュラム・マネジメント」は、1つは教科横断的な視点で、教育課程を組むということである。例えば、国語と算数と社会など分野横断で連携を図りながら、関わりをもたせながら教えるということである。そのような取組をすることで、学びが日常生活に生きてくることをねらっている。評価でとどまることなく、教えてもらったことを自分の生活に生かす、社会に生かすという取組である。

学校の教育課程は、PDCAサイクルで、常に、実践、評価、改善をしている。ま

た、学校だけで完結せず、地域の教育資源として、施設的なものや地域の人々の御協力をいただき、学校を支えていただく、また、学校から発信して協働的学びを展開している。これは、以前の学びとは異なり、地域の方々の力を借り、また、児童・生徒が地域に飛び込んでいく学びを進めていくことである。

「就学支援シート」は、未就学児が入学後に充実した学校生活を送れるように、保育園や幼稚園で、就学前に必要なであった支援や配慮について、保護者とともにまとめ、小学校に引き継ぐというものである。

○事務局

「スクールカウンセラー」は、各小中学校に配置され、児童・生徒の生活の問題や悩みの相談を受ける者である。また、先生や保護者に対し、指導、助言を行う専門家である。具体的には、多くは臨床心理士があたっており、全小中学校に配置されている。東京都のカウンセラーとして配置されている者と、市のカウンセラーとして配置されている者がいる。市のカウンセラーの数は多くないが、基本的に人数が多いところに、都のカウンセラーに加えて配置されている状況である。

スクールソーシャルワーカーとは、子どもが生活の中で、特別困難な課題や問題に対し、個人等の課題の背景に働きかけを行い、支援を行う専門家である。現在は6名おり、教員経験者や教育委員会経験者、臨床心理士等であり、さまざまな経験を積んできた職員が対応している。

「スキップ教室」の正式名称は「適応指導教室」である。市内に2か所あり、1つは西原総合教育施設、もう1つは保谷小学校内にある。市内に在住している小中学生で、公立私立関係なく対応している。学校生活への適応を促すことを目的に運営しており、子どもが通えるときに通っていただき、生活のリズムをつくることを目標にしている。退職した元教員が指導員となり、学習指導も行っている。子どもたちの能力や興味、関心に合わせて指導を行っている。また、学校訪問を行うなどして適応指導教室に通っている児童・生徒の在籍学校と連携した指導を行っている。

ニコモルームの正式な事業名は「不登校、引きこもりセーフネット事業」というものである。不登校の18歳、高校3年生までの児童・生徒、保護者の方の相談支援、居場所としての施設である。主に学習指導や運動等をしている。参加していただくことで、自立を促す役割がある。また、児童・生徒が来られない場合は、家庭訪問を行っており、支援につなげている。

○事務局

「ゼロカーボンシティ宣言」は、令和4年2月に、西東京市として宣言したもので、内容としては、2050年までに温室効果ガスの排出を全体としてゼロにする、すなわち2050年カーボンニュートラル、脱炭素社会の実現を目指すことを市として表明したものである。

なお、カーボンニュートラルとは二酸化炭素等の温室効果ガスの人為的な発生源による排出量と、森林等の吸収源による除去量との間の均衡を達成することである。

各用語については、教育計画の87ページから92ページにかけ、用語解説があるので、参考にしていきたい。

○座長

用語解説をしていただいたが、内容的に教えていただきたいというところはあるか。

○A委員

カウンセラーは、市からのものと、都からのものがあるということだが、両者に違いはあるのか。システム上の違い等があるのか、教えていただきたい。

○事務局

主には予算上の違いがあるということである。どちらも同じように対応している。

○A委員

基本的には、週に1回か。

○座長

都のスクールカウンセラーは週に1回で、市のスクールカウンセラーは状況によるということよろしいか。

○事務局

そうである。

○B委員

先ほどの説明では、大規模の学校には支援ということだが、いかがか。

○座長

都のスクールカウンセラーは全校配置で、週に1回、都から来ていただく。

○事務局

市のスクールカウンセラーは、大規模校を対象に配置し、週に1回程度来ていただいている。

○座長

他に、内容的な疑問点があればお願いしたい。

では、これらを踏まえ、今後、西東京市の教育を進めていく上で、御意見があればお願いしたい。本日は中間報告として、状況を報告していただいたので、この後の2年間のためにも、御意見をいただけるとありがたい。

○A委員

雑駁な感想だが、社会教育課の主管するものは、市民活動、生涯教育全体を扱うイメージをもっている。例えば、14番「市民活動団体の支援、相談」等は、社会教育課で担うべきではないかと思う。現在は、すべて公民館が主管になっているが、この部分での連携・協働が、もう少し市の中にあると、市民が社会教育課をより身近に感じるようになると思う。

○C委員

「子どもの「生きる力」の育成に向けて 社会の変化に応える確かな学力の育成」と

あるが、「社会の変化」とは、具体的には「英語」と「GIGAスクール」を指しているのか。それ以外にあれば、教えていただきたい。

○事務局

内容としては、教育計画の冊子の19ページに、「現状と課題」ということで、基本方針の1の方向をまとめている。今後は、変化に富む社会に対応しながら、生きる力を養っていくとなっている。

20ページから25ページまでが、方向の中の事業という形になる。この中にはさまざまな事業が位置付けられている。これらは、薄い冊子から主に、特にまとめたものを載せている。これだけではなく、代表的なものとして挙げている形になっている。細かい部分は、参考資料を御覧いただくと、情報が載っている。

○B委員

「マルチメディアデイジー」は、ずいぶん前から導入が検討されているが、具体的に使い始めることが難しいと思う。識字が難しい方にとって効果的なものになると思われるので、ぜひ進めていただきたい。デジタル教科書などの教材を必要とする方が、「自分だけが使うことで目立ってしまうことが辛い」という話も聞くので、全員で使っていくことで、必要とする人が気兼ねなく自由に活用できる環境になればよい。

○D委員

GIGAスクール構想については、西東京市は力を入れていることもあり、明らかに授業のスタイルが変わり、3年前とは授業風景が異なっている。大きな進歩だと思う。

一方で、情報リテラシーや情報モラルについては、学校で指導することも可能だが、GIGAスクールとは関係なく、ネットの中毒性については問題である。子どもだけではなく、大人にもそのような傾向があり、子どもの生活にも大きな影響が出ている。スマホをトイレの中でも使うことで親子でのトラブルになったり、夜間の使用による寝不足等、問題が出ている。中毒性があるがゆえの問題に対して、何らかの対策を講じていかなければいけないと感じる。YouTube等のインターネットに関する中毒問題については、次期の計画でも結構なので、対策が必要だと感じる。

○座長

全国的な課題だと思う。ぜひ、検討をお願いしたい。

○E委員

今回の評価で、10番「学校施設等の施設の計画」、冊子の23、24ページの施設に関して申し上げる。私は3月まで田無小学校に勤務していたが、大規模改修工事で大変使いやすくしていただいた。外壁、内装、トイレ等、すべてを改修していただいた。新型コロナウイルス感染症の影響で工事期間が延びたが、A評価でもよいと思う。

現在はトイレの改修を進めていただいているということだが、西東京市の全体の予算が厳しい中で、改修を着実に進めていただいていることに感謝する。どの自治体でも、今後は施設再生計画で学校以外の公共施設等の改修をどのように進めていくのかは課題だと思う。現在、横ばいの子どもの数も、数年後からは大きく減っていくので、統廃合等も検討する段階になってきたと思う。

この計画は5年間ものだが、今後は社会教育施設も含めた複合型の施設等の計画の予

定があれば、教えていただきたい。

○事務局

市全体として、昭和40年代後半から50年代初頭にかけて、いろいろな施設をつくった。それらが一気に更新時期を迎えている。中でも、学校の延床面積が60%ということで、大きな割合を占めている。

現在は少しずつ、改修工事を進めている。また、市全体で、公共施設の再編の計画をつくっている。それに呼応する形で、学校はどのようにしていくのか、どのタイミングで、どこの学校をどのように改修していくのかという、個別施設計画の作成を検討している。令和6年度には、今後の詳細が見えてくるという状況である。

○E委員

物理的に社会複合施設だと、ここに書かれている人的、物的連携が、より進んでいくのではないかと思う。生涯学習教育の視点からも学校を核に、子どもを中央にする政策を、公民館、図書館等の社会教育施設が一体となって進めると、連携が強まっていくというイメージだと思う。そのようなことも併せて考えていけるとよいと思う。

○F委員

スクールカウンセラーに関しては、都からと市からの2の方が来るということか。学校には同じ方が何度か来たほうがよいように思う。相談する側から考えると、同じ方に相談したほうがよいのではないか。

○事務局

スクールカウンセラーに関しては、担当が決まっており、年間を通してその学校に同じ方が配置されている。スクールソーシャルワーカーに関しても、同じように担当する学校が決まっている。同じ方が、子どもたちの相談に乗る形である。

○座長

御質問は、都のスクールカウンセラーが1名、市のスクールカウンセラーが1名ということで、同じ人に相談できるのか、ということだと思う。

○F委員

市のスクールカウンセラーが2回、同じ学校に行き、都のスクールカウンセラーは別の学校に行くというしくみにはならないのか、ということである。

○座長

市の権限では、制度上、都のスクールカウンセラーの配置についての調整はできない。

市のスクールカウンセラーは、週に1回、来られるのか。曜日は決まっているのか。

○事務局

週に1回である。都のカウンセラーとは違う曜日に来ていただいている。

○F委員

資料のどこかに、都の予算に関する記述があったと思うが、「スクールカウンセラーはいつもいるわけではないので、大変相談しにくい」という話はよく聞く。あまり機能していないことも聞くので、相談しやすい環境が整うとよいと思う。

○座長

校長先生方、スクールカウンセラーの状況は、学校ごとにずいぶん違うと思うが、いかがか。

○D委員

以前は教育支援という考え方がなく、スクールカウンセラーと担任だけでやり取りをしていた。そのような時代が15年、20年続いた。現在は、学校で校内委員会を、毎週開き、支援の必要な子どもに関して、みんなで話し合っている。教員の中にコーディネーターがおり、そこにスクールカウンセラーも入り、組織的に対応している。カウンセラーがうまく機能していないのであれば、それは学校の問題だと思う。

○座長

私も現場にいたので、そのような感覚はある。

○E委員

小学校も同じだと考える。相談件数はどんどん増えているので、カウンセラーに毎日いただければ、ありがたいと思う。東京都が7、8年前に、一気に全校に配置すると決めた。学校現場にとっては大きな一歩だった。その後、活用が進む中で、週に2回ほど来ていただけるとありがたいという要望はある。保護者にとっても、子どもにとっても、「いつ行っても心の拠り所になる、教員以外の方がいる」ということはありがたいことである。私も校長会としても、できる限り日数を増やしていただけるとありがたいということで、要望させていただいている。

○A委員

昨日、公民館運営審議会があり、そこで出た御意見をお伝えする。子どもたちが幼児期から自然と触れ合ったり、いろいろな体験をしたりする機会が非常に減っている。西東京市の中でも、実際に自然に触れ合う場所がない。公園等も規制があり、実体験をさせようと思うと、他市に子どもを連れて行く必要がある。西東京市には、市が運営するプレイパークのようなものがなく、子どもが小さい頃から実体験をさせることができない。そのようなことは、子育て支援の分野の取り組みだと思うが、結果的に、小学1年生からネット社会に入るといった傾向がある。「幼児期からつながる生きる力」を見ていかないと、学校だけではどうすることもできないと思う。そのような視点を入れ込んだ教育計画が望まれるのだと思う。

20ページに就学支援シートが載っている。以前から、就学前の情報がうまく小学校に伝えられるかは大きな課題であった。現在のシートは、現場の声が反映されて、使いやすく、効果的なものになっているのか、お聞きしたい。

○事務局

就学支援シートについては、毎年、趣旨等を説明させていただき、幼稚園や保育園に御協力いただいている。強制的に提出していただくのではなく、保護者の方の任意提出

である。ただ、幼稚園や保育園のスタッフの方の御尽力で、回収率は毎年、増えている。今後、特別に配慮が必要な子どもに限定せず、一人ひとりの子どものニーズに応える教育を学校教育の中でも捉えていくことを考えると、できる限り多くの保護者の方に御提出いただき、小学校教育の中で生かし、さらにそれを中学校につないでいきたいと考える。内容の簡潔さ等も含め、園長先生や保護者の方々の御意見を聞きながら進めていきたいと考えている。

○G委員

A委員の御意見を聞いてうれしく思った。

今の事務局の説明は、幼稚園の見解と違うと感じた。就学支援シートは、あくまでも必要だと思う保護者から申し出て、提出していただくものである。小学校に対し、園から謄本としてお渡ししているものがあり、その他に支援シートを書くということが、幼稚園保育園の現場にとって負担になっている。

幼保小の連携に関する評価はBということだが、新型コロナウイルス感染症の影響もあり難しかったと感じる。小学校の先生方には、園でどのようなことをしているのかを、もっと知っていただきたいと思う。園サイドから申し上げると、3年間で生きる力を身につけていても、小学1年生でとても幼く扱われることで、一度リセットされてしまうような印象を受ける。最たるものが運動会で、徒競走のアナウンスで「まっすぐに走っています」という言葉を聞くと、「ばかにしているのか。園では50メートルのタイム測定をしているのに」と感じてしまう。悪気はないのだと思うが、捉え方の違いで、受ける印象は大きく変わると思う。子どもたちも、年長から1年生になり、6年生の子どもに手をつないでいただきうれしそうではある。

実際に、園での成長は就学支援シートでなければ伝えられないこともあると思うが、大きな負担であることは御承知おきいただきたい。個々に園に出向いていただき、子どもに関する引き継ぎや話し合いは、常にしている。

○座長

幼保小の連携に関しては、今後も議論を深めていきたいと思う。

○H委員

37ページ「キャリア・パスポート」に関して申し上げる。キャリア・パスポートの言葉と自己の将来のつながり等を見通し、自分で書いていくことは、大変よいと思う。気を付けていただきたいと思うことは、キャリア・パスポートを埋めることを目的にした子どもが出てくることである。書いたことが結果につながらなかったり、100%埋めなければいけないと考える子どもが出ることを懸念する。すべての事柄を将来につなげなくてはならないのではないかと負担に感じる子もいる。埋まらなくてよいので、ずっと続けていくことが重要だと、子どもたちに周知するとよいと思う。

○座長

キャリア・パスポートについては、学習指導要領に全国的な基準があり、そこに示されていることに基づき、各学校が取り組んでいる。

○E委員

キャリア・パスポートは、現行の学習指導要領では特別活動の分野で示されており、

全国で共通して実施している。「キャリア・パスポート」という言葉から、遠い将来に向けた夢や希望を大きく掲げるようなイメージがあるが、これまでも、小学校では毎学期ごとに、学習面や生活面での目標をたてていた。基本的には、そのようなものだとお考えいただきたい。学習面や生活面での目標以外に、運動会や展覧会、音楽会等の大きな行事ごとに、自分がかんばりたいことを掲げる。6年間、そのようなものを蓄積して、中学に引き継ぐというものが、キャリア・パスポートである。自分が具体的に挙げた課題と、それを達成するための目標をもち、具体的な手だてを考えるという思考の流れを経験し、繰り返すことにより、子どもがスローステップしながら自分の力を身につけていくということである。その結果、達成感を味わい、自己肯定感、自己有用感を高めながら、先につなげていくことが目的である。遠い将来を見据えたものではなく、目の前の取組を自分で検証していくためのカードだと御理解いただきたい。

○座長

27ページ「地域学校協働本部の研究」「コミュニティ・スクール」が挙がっており、下部に説明があるが、両者の現在の進捗状況を完結にお知らせいただきたい。これは次期計画の中では重点的になるべきものだと思う。

○事務局

平成29年に社会教育法の改正があり、地域学校協働本部は学校応援団として位置付けられた。地域学校協働本部とコミュニティ・スクールが調査、研究を行うという形で、計画に位置付けられている。現状としては、調査研究が進み、令和3年度にモデル校として、小学校1校、中学校1校に、先行して導入した。今年度は、小中合わせて、27校中7校に導入している。市としては全校に展開していきたいと考えている。具体的にいつ達成できるかは、今後、地域等とも連携しながら進めていく中で決まってくると思う。次の計画策定の令和6年までには、設置は終わり、それをどのように有効に活用しているかということの主眼に計画に位置付けていきたいと考えている。

○座長

私の記憶では、全国的なコミュニティ・スクールの設置は、5、6年前には10%を切っていた。自治体によって内容を少し変えたりしながら、少しずつ進んできた。今後は、そのようなことについての議論もしていきたいと思う。

2 計画策定におけるヒアリング調査の実施について

○事務局

(資料3と資料4を用いて説明)

○A委員

ヒアリング調査の実施概要の2ページに、放課後カフェを入れていただき、大変うれしく思う。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響で飲食が禁止になり、ほとんど実施できていない。むしろ、「こども食堂」のほうが、子どもの様子をよく御存知だと思う。できれば、放課後カフェとこども食堂の両方から声を取り込んでいくことができればよいと思う。

3 計画策定におけるワークショップの実施について

○事務局

(資料5を用いて説明)

○座長

企画段階ということだが、いかがか。

○B委員

ワークショップは大変楽しいので、実施できたらよいと思うが、初めて会った子どもが、ある程度限られた時間の中で議論しまとめていくためには、方向性を示すのではなく、その場の進行調整を行うファシリテーターの役目が大変重要になると思う。子どもが意見を出しやすい雰囲気を作り出せるようなファシリテーターがいると小中学生の意見をうまく吸い上げられると思う。

○座長

事務局、具体策を検討していただきたいと思う。

4 その他

○事務局

本日の資料については、御欠席の委員もおられるので、一度送らせていただく。御確認いただきたい。

次回、第4回の会議については、令和5年1月23日(月)の午後1時からを予定している。以前お聞きした出欠等について変更があれば、メール等、もしくは、会議終了後に事務局まで御連絡いただきたい。

次回の会議までに時間があくので、事前に、メール等で、更新したヒアリング資料やワークショップ資料等を御提供させていただく。

また、令和4年11月から令和5年1月にかけて、アンケートの実施、集計、ヒアリング、ワークショップ等が予定されている。実施した内容は、報告書や資料にまとめ、次回以降の会議の際に、順次お示しさせていただく。

<閉会>